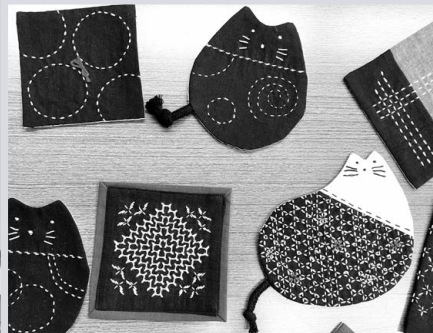
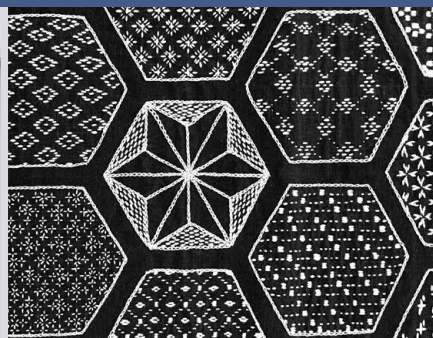


# 生涯学習やまがた



昨年開催のチェリアフェスティバル（10・月）での展示風景



刺し子クラブみどりの皆さん



## CONTENTS

- 2 特集  
高校生の地域参画～新庄・最上ジモト大学の实践から～（高橋 一枝氏）
- 5 あなた やまがた たからびと⑩  
イシザワエリさん（中山町）
- 6 このまちに注目！  
希望ホール（酒田市民会館）  
シェルターインクルーシブプレイス コパル（山形市南部児童遊戯施設）
- 7 事業報告  
「山形学」フォーラム・講座／山形県地域づくり実践交流集会
- 8 information  
山形県生涯学習センター助成制度のご案内、第9回洗心庵写真コンテストU-18応募作品展、  
遊学館ブックス最新刊『山形にも迫る環境異変～先人の知恵に学ぶ～』発刊！

遊学の風景／遊学館2階 学習室  
刺し子クラブみどり

山形の伝統文化である刺し子を継承・発展させることを中心に、身近な男女共同参画を語り合い、誰もが住みやすい地域社会を作ることとを目的とし、3年前に設立しました。現在15名で活動中です。制作しているのは、置賜地域に伝わる「花ぞうきん」をベースにした「長井刺し子」。100を超える文様が伝わっており、その特徴を守りながら、現代の生活にも活用できる様々な作品を作っています。年齢や立場、職業を超えた、ゆるやかであたたかなつながり。皆、月に1回の定例会をととても楽しみに活動しています。  
「今後は作品販売も目標の一つにしていきたい」と語っていただきました。

子ども・若者が地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育む上で重要とされています。今号では若者の地域・社会への主体的な参画について、高橋一枝氏より寄稿していただきます。

# 「高校生の地域参画 新庄・最上ジモト大学の実践から」

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム事務局

一般社団法人とらいあ 専務理事 高橋一枝氏

## はじめに

私が所属している一般社団法人とらいあと、ジモト大学の出会いが7年前となります。図書館を指定管理しているとらいあの強みは、学校教育に一番近い社会教育施設（事業）であり、社会教育の実践者であるということ。当時県立高校のキャリア教育からはじまった地域理解プログラムが新庄・最上ジモト大学として生まれ変わる瞬間に立ち合わせていただき、ジモト大学と共に成長し続けることができました。一般社団法人とらいあは「人に、まさに、学び場を。日々に豊かさを。」をスローガンに、地域と共に学びのネットワークづくりを推進しています。「とらいあ」の名称は、「家庭・学校・地域の学びのネットワーク、連携協働の

三角形、三方よし、挑戦する人、地域のために常に努力を忘れない」に由来しています。新庄市の社会教育施設である図書館、雪の里情報館の管理運営事業を柱に、行政や関係機関との連携を図り、持続可能な社会となるよう、人づくり・地域づくりを目指して、理事職員26名で地域全体の「学びの土壌づくり」に東奔西走の毎日です。

## 1 最上地域の人口減少と若者の県外流出

最上地域は1市4町3村（新庄市・金山町・最上町・舟形町・真室川町・大蔵村・鮭川村・戸沢村）で構成され、人口（令和3年10月1日時点）は69,357人と、7万人を切ってしまいました。山形県は人口減少率が全国で第5位（2015年

2020年）であり、最上地域は山形県の2割の面積でありながら県の人口の約6.6%とまさに全国有数の過疎地域となっています。また、人口減少の大きな要因の一つに最上地域に高等教育機関がないことで、高校生が進学する際にこの地域を離れていくという現実があり、令和2年度の調査によると卒業する高校生の約5割が県外へ進学・就職しているという数字も報告されています。最上地域の高校生は、地域のヒト、モノ、コトを知る機会がないまま、最上地域をあとにしています。

## 2 新庄・最上ジモト大学について

### （1）ジモト大学とは

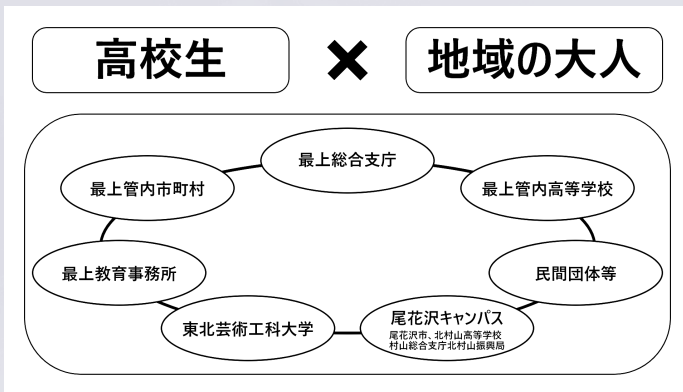
そのような背景の中で、高校生が旅立つ前に学んでほしいと『新庄・最上ジモト大学』は「高校生と地域の大人が本気で語り、学び、交流する場」として、最上地域全体がキャンパスとなり、平成29年に開講しました。部活動や学校の授業で多忙な高校生に、少しでもこの地域の課題や魅力を知り、地域の大人と繋がる機会を提供したいと、行政、高等学校、企業団体等が地域一体となってプログラムを企画し提供しています。近年では、高校生がプログラムを企画し、地域の大人が支援・伴走をしたり、ジモト大学に参加した高校生

が卒業して大学生となりプログラムを企画提供するなど進化変容していきます（後述で詳しく記載）。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を重視しており、高校生が主体的に学習に取り組む態度を育成すると共に、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ることもジモト大学の大きなねらいとなっています。

3人の子育てが一段落した2002年より、新庄市立図書館司書として勤務。図書館や保育所・幼稚園、小学校での読み聞かせを実践し読書活動の推進を図る。2007年より市民協働の図書館を目指した委託団体の設立メンバーとして実務を担う。2009年に図書館を基盤としたまちづくりや子育て支援、学校図書館との連携も視野にいたした社団法人を設立。同時期に新庄市全体での子ども読書推進活動に携わる。2012年4月に館長職に就任。出前図書館事業やブックスタート事業など、暮らしの中の身近な図書館づくりを行う。2017年4月新庄・最上ジモト大学のコーディネーターや実施に携わる。山形県社会教育委員、山形県図書館協議会委員などを務める。

### 高橋 一枝氏 プロフィール





新庄・最上ジモト大学のコンソーシアム体制

## (2) 推進体制

平成29年度に官民協働事業として事業化され、さらに平成31年3月には、市町村、県、管内高等学校、大学、経済団体などの22団体で構成されるコンソーシアム体制となりました。令和3年度からは、行政区を超え北村山地域の尾花沢市等も取組みに加わり、今現在は25団体となっています。また、山形県と、とらいてで構成される官民協働の事務局体制は全国的にも珍しく、官の牽引力、民の柔軟でユニークな発想と幅広いネットワーク、お互いの強みがシナジー（相乗効果）となって今年度で6年目を迎えています。

## (3) 具体的なとりくみ

ジモト大学のプログラムはそのコンテンツで大きく三つに分類されています。仕事を意識し、内容ややりがい、その仕事に就くための方法などいろんな職種にふれることができる「キャリア型プログラム」。体験することのできる「食や文化、歴史を知ることが出来る「体験型プログラム」。地域の課題を見つけ、そこに自分は何を思いどう関わり、動いたらいのかを考えて、自分を知る、活動を通して地域を知る「課題発見型プログラム」。開講当時は12プログラムの実施でしたが、令和4年度は42プログラムとなり、開講当初より3.5倍に増えています。

(4) 具体的なプログラム(令和4年度)  
①キャリア型「手で話そう」〜手話通訳という資格を知ろう〜(提供者：新庄市) 参加者14名

新庄市では手話条例が令和3年12月に制定されましたが、手話通訳者の資格取得者は11名と少ないことが課題となっています。市内の「ろう者」「手話通訳者」との対話を通して、携わる資格を理解し関心を持ってもらい、資格取得までの流れや、簡単な手話の会話を体験することができました。参加した高校生からは「手話通訳士のキャリアに触れどのよう

た」などの声がありました。



②体験型「押し語りしたくないか?俺はしたい。」(提供者：地域活動グループよりみちくら部) 参加者19名

自己表現力を含めたコミュニケーション能力の向上・新たな視点の発見を体験してほしいとの目的で、参加高校生各々が「押し」について語り、プレゼンするという企画が多忙な高校生の時間にあわせ3回開催されました。参加者は「世界が広がった」、「他の人の感じ方や価値観を認める姿勢を学んだ」、「世代が違う人と話す力がついた」など自己肯定感にもつながりました。

③課題発見解決型「TASKI塾 地元の魅力と防災編」(提供者：尚絅学院大学ボランティアチームTASKI) オンライン開催 参加者2名

高校生が自分の地域に対して関心を持つと共に、被災地である閉上のごとを知ることで、震災を自分ごととして捉え、大学生との対話を通して地域の防災について考える機会となりました。先に述べたように、ジモト大学に参加した先輩高校生が、新庄最上地域に貢献できたらと、進学した大学の仲間と一緒に企画し、2年目。今年もオンラインで実施しました。

(5) プログラム勉強会と新庄・最上ジモト大学フォーラム

プログラム勉強会は、大学の先生を講師として開催しています。高校生がこれからの時代を生き抜く力(主体性・協働性・社会性・探究性)を学ぶプログラムとするため、関係者の勉強会を年1回以上行い、対話を通して地域の大人のネットワークづくりにもなっています。また、フォーラムは高校生の探究発表の場、プログラム提供者の事例発表、多世代の地域の方と高校生のワークショップによる対話など、1年間のリフレクション(ふりかえり)と交流の場となっています。今年度は2年ぶりに会場に集まり、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の大学生や、地域活動グループよりみちくら部、高校生地域開発チームWATSなどの協力により、楽しくフラットに元氣いっぱいフォーラムが開催されました。

## (6) 地域側の協力と学校との連携

ジモト大学の情報を丁寧伝えて、各校の生徒に平等かつ円滑に参加してもらうために、最上地域のすべての高等学校及び北村山高校でジモト大学説明会を行っています。今年度はさらに、プログラム提供者も一緒に学校に伺い、PV動画や写真で説明するなど、プログラムの魅力を存分に伝え、高校生にアプローチすることができました。また、高校生が円滑に参加申込ができるように、地元企業が協力開発したWEB申し込みシステムを採り入れ、パンフレットには書ききれないプログラムの情報発信や参加状況がリアルタイムで把握できるようにしています。



## 3 効果

### (1) 高校生の動き

過去5年間で130プログラムの実施、そこに参加した高校生は延べ2,697名となりました。世代を超えた交流、他校の生徒や多様な地



域の大人と繋がることのできるジモト大学はコロナ禍の今年度も、オンライン、リアルとその時の状況に応じて常に学びを止めずに展開しています。6年目の今年度は、42プログラムを実施予定、うち2プログラムがコロナ禍により中止となりましたが、12月末現在38プログラムを開催、736名もの参加がありました。最上管内の高校生はもちろん、北村山地域の高校生との相互交流も図ることができ、何気なく道端で会う高校生が「今日これからジモト大学さ行ってくる」など、そんな会話が聞かれるようになりました。今年度は高校生の自走もはじまり、「ボードゲームで新庄を豊かに」と題してプログラムを実施し、延べ36名の参加がありました。その中で大人や大学生を含むコアメンバーが十数回集まり、なんとジモト大学でボードゲーム「新庄版カタン」も完成しました。フォー

ラムではお披露目会としてゲームを体験できるイベントも行います。今後地域で活動した高校生の輪が広がり、将来の担い手となって、地元に戻り、活躍する人材となることも期待できるのではないのでしょうか。

### (2) 地域の動き

ジモト大学では地域の大人も提供者としてプログラムに主体的に関わっています。プログラムに参加した高校生からのアンケートをもとにリフレクションをおこない、よりよいプログラムを提供できるよう、地域部会も立ち上がりました。さらに高校生の自走を安心安全に活動できるように伴走し、大人たちも共に学んでいこうと「最上マイプロジェクト推進運営委員会」も地域に生まれました。そこで学んだことを活かしながら、自分たちの住んでいる地域の魅力や課題を再発見し、最上地域の中で、多世代、多様な業種の方々が、地域づくりに関わる機会やコミュニティが生まれてきています。

## 4 今後の課題

新庄最上及び尾花沢管内の多くの高校生が地域で安心安全に学び、活動できるようにするためには、学校と地域がさらに連携協働できるような強固な信頼関係が必要であると感

じます。また、高校生の活動交流拠点の整備充実も今後の課題となっています。子どもたちが高校に進学したときに、スムーズに自身のプロジェクトが自走できるように、小学校、中学校から探究学習やふるさと学習を支える、地域総がかりでの体制づくりを推進していきます。ジモト大学のもう一つの目的「地域住民として当事者意識を醸成することにより、将来の定住や地域の中核となる人材育成」達成のために、効果検証を行い、多様な参画ができるように検討を進めていくことが大切であると考えます。最後にジモト大学のグランドルールをご紹介します。高校生も地域の大人もその先の未来に向かって学び、成長し、躍進するために…

大人と高校生のグランドルール！

☑ジモトのことをよく知ろう！

☑もっと自分から積極的に語ろう！

☑ともに本気で学ぼう！

合言葉は、ジモト！！

大人と高校生の  
グランドルール  
(参加者が守るべき共有するルール！)

**ジ** 地元のことをよく知ろう！

**モ** もっと自分から積極的に語ろう！

**ト** ともに本気で学ぼう！

15

## あなた やまがた たからびと

# interview イシザワエリさん

アートワークショップデザイナー/  
マルイシ工作室 主宰 (中山町)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は年齢や立場を超えた双方向の関係性を生み出すアートワークショップを企画・運営されているイシザワエリさんにお話を伺います。

### — アートワークショップを始めたきっかけは？

もともと絵を描くことや表現が好きで、東北芸術工科大学で洋画を専攻していましたが、学んでいることが日常生活にギャップを感じるようになって…。そんな時に、大学のサークルで、地域の子ども達に向けた造形活動や、天童市田麦野地区で地域の方との交流を目的としたアート活動を体験したことで、人との関わりにアートが活かせることがわかり、人とやり取りし合える作品の形として、ワークショップというスタイルを取るようになりました。これは絵を描いて表現することの延長線上で、表現の手法がかわっただけ。私にとっては人と関わって、「出来事」を創っていくことが自体が作品制作なんです。

アートワークショップでは、参加者に表現の楽しさを感じてほしいので、作品の出来よりも制作プロセスを重視しています。作りたくないならボーンとしていいし、素材選びなどで悩んでいたらファシリテーションでフォローします。参加者一人一人がどう過ごし、何をしたいのか主体的に選択してもらうことを大切に、お互いにアートの側面から、その人らしさを認め合ったり深め合ったり味わったりする場、いろんな人の個性を大事にし合える場になればと思っています。

### — これまでの活動で気づいたこととは？

長く続けている活動の天童アートロードプロジェクトでは、ワークショップの他、天童市美術館で展覧会も開催しています。活動から10年経



東北芸術工科大学で専任講師もされているイシザワエリさん。昨年は、「太陽」をテーマにいくつかのワークショップを開催。新入生を歓迎する展覧会「はじまりのたいよう」も企画しました。

ち、小学生や保育園児の時にワークショップに参加してくれた子ども達が、今は自分の展示作品を出品したり、企画する私達の話し合いにも入ってくれたり、役割を変えて関わってくれるようになり、継続的に活動してきたからこそその変化を感じています。それから、放課後デイサービスでのワークショップを行った際には、普段は利用者や支援員という固定された関係性の中でお互いを見ているのですが、外から人が入って関わりを持つことで、「この子ってこんなに集中するんだ」、「この色が好きなんだ」とか、知らない側面を知るきっかけになっていて、利用者だけでなく、保護者や支援員にとってもすごい発見でした。アートワークショップは、アートのプロセスから、凝り固まった関係性や価値観を柔軟に捉え直して、新しい発見や気付きを得ることができると感じています。

なにより、私自身、実は生きるのがしんどかったのですが、生きているのが楽しいと感じるよう

になりました(笑)。来てくださった方からも楽しそうですねと言ってもらえたり嬉しかったですね。ワークショップでパフォーマンスをしたり、参加する方と一緒に制作したりすることも含めて作品だと思っているので、自分がいろんな人と出会って刺激を受けて楽しいと思ったり、関わった人からもなんだかいいな楽しいな思ってもらえるのはすごく嬉しいです。

### — これからの目標は？

まずは、自分の地元の中山町に構えたマルイシ工作室という拠点から、中山町にこういう歴史があるよとか、こんな面白い人がいるよと知ってもらったり、新しく面白い「出来事」を地域で作れるんだと思ってもらえる企画をしていきたいです。

それから、まだぼんやりですが、アート人材を福祉や保育の施設に配置して、施設で造形やアート教育ができないものか考えています。行政が保育施設にアートを派遣する事業などが行われている県もあります。山形県には東北芸術工科大学があり各市町村に卒業生や人材がいます。保育や福祉の現場でアートの要請があれば、卒業後に仕事をしながらアートを続ける人も含めて、こんな人がいるよとマッチングできないかと考えています。

イシザワエリさん HP。  
これまでの活動がたくさん  
写真で紹介されています。



<https://magnolia1411.wixsite.com/ishizawaeri>

# このまちに注目!

地域の取り組みを  
紹介します

## 酒田市

酒田市教育委員会／希望ホール（酒田市民会館）  
さかたアートアカデミー～公共文化施設とわたし～

## 『地域における 公共文化施設の役割とは』

### ■事業内容■



令和4年8月から11月にかけて、文化施設や公共施設に関わる方やアートマネジメントに興味や関心のある方を対象に、現代社会における公

共ホールや美術館の役割について、アートの現場と地域社会との関わりを考える全6回の講座を開催しました。

劇作家、演出家、アーティスト、公共施設職員等、各分野から講師やパネラーを招き、座学だけでなくワークショップなども交えて、参加者同士の様々な交流を創出し、将来の地域における文化艺术活動を支える人材の育成を図りました。

### ■ここが大変■

受講者23名の経歴や年齢が多様だったため、事前に講師と受講者の経歴や雰囲気とを共有し、受講者の特長に合わせた内容で講義を行いました。

### ■ここがうまくいった■

カリキュラムの中で、ダンスワークショップやグループディスカッションを行うことで参加者同士の交流を図りました。また、現在も公共文化施設の運営に携わっている方や、数多くの事業に携わっている方を講師にお招きし、実際のアートの現場の状況をご講義いただきました。

#### 参加者Voice

普段触れることができない知識やデータを沢山見せていただけ良かったです。街や地域のために、自分にもできることを探してみようと思いました。(酒田市 30代)

## 山形市

シェルターインクルーシブプレイス コパル  
(山形市南部児童遊戯施設)  
うんちのことを知ろう

## 『理想のうんちとは？ うんちについて親子で学ぼう』

### ■事業内容■



最近増えている子どもたちの便秘。当施設でも、子育て中の保護者に相談されることが多いテーマでした。知っているようで知らない、理想の「うんち」とはどんな「うん

ち」だろう？という疑問を、POOマスター\*山形のみなさんが解決してくれる内容です。お子さんと保護者を対象としたこのイベントは年2回開催しています。

イベント当日は、絵本の読み聞かせやダンスを通して、親子で楽しみながら「うんち」について学びました。個別相談の時間もあり、参加者にとっても有意義な時間となりました。

\*POOマスターとは「POOマスター養成研修会」を受講し、認定試験に合格した排便ケアのプロフェッショナル。POOとは英語でうんちのこと。

### ■ここが大変■

幼児の集中力を考えたプログラムにしましたが、初回は途中退席があったため、2回目からは子どもたちに被り物を選んでもらったり、ダンスの回数を増やしたり、腸のモデルを一緒に引っ張るなど、子どもが飽きないよう工夫しました。

### ■ここがうまくいった■

動画環境を整えたことで、ダンスの動画を見ながら子どもたちと一緒に歌って踊ることができました。参加後のアンケートで参加者全員から楽しかった、うんちの性状に関心が持てたと評価していただきました。

#### 参加者Voice

・子どもが偏食で困っており、自分自身も便秘のため、便の性状を見なければと思った。(40代女性)  
・うんちダンスが楽しかった、また参加したい。(小学生女子)

# 山形県生涯学習センター事業報告

## 「山形学」フォーラム、講座 「食」をめぐる山形の地域課題

平成2年の開講から32周年を迎えた今年度「山形学」は、食を切り口に山形の地域の課題や変化を学びました。フォーラムでは、食を通じた新たな実践が社会をどのように変えようとしているのかを、学校給食や子ども食堂の例から考えました。今年度は10~20代の若い参加者が多く、会場は活気に溢れていました。講座では、コロナ禍で中止していた現地学習を3年ぶりに実施。食と農の持続可能な



「山形学」フォーラム



講師の石井さん(右)

フォーラム 6/18

講座 7/24、8/20、9/11、10/2、10/23  
遊学館 & 鶴岡市、飯豊町

食糧自給を目指す地域内循環の取り組みや、牛の糞尿からバイオガス発電を行う画期的な取り組みを見学し、現場を肌で感じることで深く学ぶことができました。館内学習では、子ども食堂や地域食堂の県内での急激な増加、新規就農者を増やす取り組み、現代に合った農産物の販路開拓や実践方法、うどんを活用した高校生の地域貢献など、様々な視点から課題への理解や共有、そして解決へのヒントを得ることができました。

### 参加者Voice

- 消費者は安価、便利だけを求めるのではなく、山形の食・農の文化に敬意を払い、大切に作り届けてくれる人への感謝の気持ちを対価として支払う意識改革が必要だと感じました。

## 山形県地域づくり実践交流集会 地域づくりの担い手育成~若者は地域をどのように捉えたのか~

日付 11/6  
会場 遊学館  
第1研修室

地域づくりや地域学を実践する方が学び合い交流する本集会。今年度より「地域学交流集会」から「山形県地域づくり実践交流集会」へ名称を新たにし、(一社)とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人氏のコーディネートで開催しました。はじめに、東洋大学学長の矢口悦子氏よりオンラインで講演いただき、戦後の青年教育において山形県が全国的な運動のリーダーとして存在していたことを学びました。続いてのシンポジウムでは、山形大学教授の下平



基調講演の様子



Team 道草の山科氏と石橋氏

裕之氏との対話形式で、Team道草(山形大学)さんより、金山町や新庄市での多様な地域活動の実践について報告いただき、大石田にぎりばっと部の高橋陽介氏より、大石田の郷土料理にぎりばっとを通じた地域づくりの内容についてお話をいただきました。どちらの団体も活動の「おもしろさ」がキーワードにあり、この「おもしろさ」が活動の継続につながり、地域づくりになっていくことを会場全体で共有することができました。参加者との活発な意見交換も行われ、充実した集会となりました。

### 参加者Voice

- 親たちが生きた時代の背景を知ることができ、家族やふるさとに対する敬愛の念が強まりました。こうしたセミナーは初めて受講したので、見識が深まり共感することも多く自信が持てました。

### 参加者からのQ & A もやもや解決! 山形県地域づくり実践交流集会(11月実施)アンケートより

- Q. イベントの企画より周知が大変だったので、情報発信の場を知りたい。
- A. ズバリ、あります! 下記サイトでは山形県内の生涯学習情報や地域活動情報、イベントなどの情報発信をしています! 一般の方でも情報提供が可能ですので、詳細お問い合わせの上、ご活用ください。
- 山形県生涯学習情報提供システム やまがたマナビネット  
<https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/manabinet/>  
山形県内の生涯学習講座・教室、文化イベントの情報発信をしています。チラシやイベント情報をご提供いただければ、情報を掲載します。是非ご活用ください。

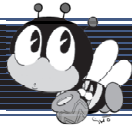


- 山形市市民活動支援センター  
<https://www.yamagata-npo.jp/>  
山形市市民活動支援センターの情報や市民活動に関する情報を掲載しています。助成金や補助金などの情報も充実しています。



- 山形若者交流ネットワークサイト やまがたおこしいネット  
<https://yamagata-okoshiai.net/>  
若者の様々な活動を応援しているサイト。若者支援の情報や、若者グループ情報、イベント情報を掲載しています。





## 【山形県生涯学習センター助成制度のご案内】

県内の皆様の多様な活動を応援しています！  
是非ご利用ください！

助成事業 HP  
<http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/promotion/>



助成事業	青少年地域学習活動支援事業	やまがた地域創生事業
対象	高校生	市町村・施設・民間団体 または生涯教育関係者
助成対象事業	高校の課外活動として行われる地域学習や地域づくり活動	①地域社会の問題解決につながる事業 ②山形県についての知識をもとにした地域づくりを目指す事業
募集数	8事業	16事業
募集期間※	4月1日～6月17日	4月1日～5月13日
事業実施期間	2023年4月1日～2024年2月29日まで	
助成金額	助成の対象となる経費又は5万円のいずれか低い額	助成対象経費の3分の2（市町村は2分の1）又は20万円のいずれか低い額
助成対象経費	謝金・旅費・賃借料・消耗品費など	

※交付決定事業が募集予定に達しなかった場合は二次募集を行います。内容が変更になる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

## ～洗心庵からのお知らせ～



### ■第9回洗心庵写真コンテストU-18応募作品展

応募作品の中から今年度の入賞作品が決定しました。  
下記日程で、入賞作を含めた全応募作品の展示会を開催します。  
是非この機会にご覧ください。

日時 3月21日(火・祝)～4月2日(日)9:00～17:00  
4月1日(土)、2日(日)は19:00まで  
場所 洗心庵多目的ホール（入園・入館無料）  
問合せ 洗心庵（下記）へ

### 編集後記

日本の伝統的な刺繍である刺し子。防寒や、衣服の補強として糸を縫ったことが始まりという説もありますが、その緻密で美しい模様には様々な思いが込められています。今ではカラフルな色合いの刺し子もあり人気の手仕事の一つです。県内には今回表紙の長井刺し子など、各地域で様々な刺し子が伝わっています。刺し子作品を生活の一部に取り入れてみるのもおすすめです。私も刺し子のふきんをお弁当包みとして愛用中です。(R)

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和5年3月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]  
TEL 023-625-6411 (貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415  
E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>  
【開館時間】 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は20:00まで]  
【休館日】 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28  
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

【開館時間】 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]  
[12月1日～3月31日までは夜間利用が無い場合は17:00まで]  
【休館日】 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

## ■遊学館ブックス最新刊 『山形にも迫る環境異変 ～先人の知恵に学ぶ～』発刊!

令和3年度「山形学」フォーラム・講座（全3回）の記録集。毎年のように異常豪雨・渇水など、環境異変にともなう甚大な災害が起こっています。山形にも迫る環境異変について、また、これからいかに生きていくかを考えていきます。



B6版 / 292頁  
価格1,100円 (税込)

山形県生涯学習センター(遊学館3階)・文翔館・洗心庵、こまつ書店、八文字屋書店、戸田書店山形店、宮脇書店天童店、山形大学小白川キャンパス生協店、Amazonで販売中。お近くの公立図書館でもご購入いただけます。

「遊学館ブックス」バックナンバーはこちらから！  
<https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/publication/>



## 🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『山形にも迫る環境異変～先人の知恵に学ぶ～』（2月15日発売1,100円）をプレゼント！左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください！締め切りは4月末です。

「生涯学習やまがた」  
バックナンバーはこちらから！

